

磨励自彊

ときわ会新潟北支部 令和6年度 会員誌 第19号



正解がない時代の判断軸

副支部長 中川 潔 葛塚中学校（昭和61年度）

今年度、校長として難しい判断を迫られる場面が続いた。そのうちの一件は、生徒指導上の問題だったが、特に難しい判断になった。私の考えはプランAだった。このAは、被害者中心の対応ではあるが、かなり加害者の立場に配慮したプランだった。職員と議論すると、AとBで意見が分かれた。Bは100%被害者の立場に立ったプランだった。私は外部の複数の機関に助言を求めた。ここでの意見も二つに分かれ、Bの意見が多数派であった。私は迷ったが、最後は自分の価値観に従って、Aとの判断を下し、対応を指示した。プランAはよい結果に終わったが、それは結果論であり、たまたま上手くいっただけかもしれない。しかし、私は仮にプランAが失敗に終わっても、後悔しなかったと思う。なぜなら、議論を尽くし、最後は自分の価値観に従って最善と信じる判断をしたからだ。

京都大学経営管理大学院特別教授の御立尚資氏は、このような「自分の価値観や信念、倫理観に基づいたリーダーシップ」の重要性について、次のように説いている。

- 変化の激しいビジネス環境で意思決定するときに、リーダーの価値観や信念が最終的な判断軸になる。
- 「リーダーとしての役を演じなくてはならない」と考

え、努めて毅然とした態度を取ったり、寛容であることを装ったりする人は少なくない。そうした自分に嘘をつくリーダーシップを取る人は、突然バーンアウトしたり、やる気をなくしたり、無気力になったりすることが多い。

- 本当の自分に合わないリーダーを演じていると部下から、「この人なんか無理しているな」と見透かされ、部下はそのリーダーの言うことを信じようとは思わない。だから組織全体を同じ方向に動かそうとしてもなかなか上手くいかない。

（PHPビジネス『正解がわからない時代に重要性を増すオーセンティック・リーダーシップ』より抜粋）

自分自身を振り返ってみると、自分の価値観や信念、倫理観に基づいた判断をしている自信はある。それは演じたり装ったりしているものでもない。しかし、その判断軸となる価値観や信念は正しいものなのか。時代に合わせてアップデートできているのか。生まれ育った昭和の価値観ではないのか。教員としての基礎を叩き込まれた平成の倫理観ではないのか。常に吟味し、新しい情報と自分の価値観を照らし合わせる必要があると考えている。

正解がない時代と言われる現代。自分の信頼できる判断軸を常に磨き続けるリーダーでありたい。